

前回（平成 31 年度第 1 回大船渡市協働のまちづくり検討委員会）のふりかえり  
地区の現状（事務局説明）

事務局説明

- 市内各地区の状況について
- 今後の地区のあり方（案）について

若菜委員事例紹介

- 地域運営の事例
  - ・ 島根県雲南市波多地区
  - ・ 山形県川西町吉島地区
  - ・ 岩手県北上市口内地区、一関市川崎地区

○ 市内各地区の状況について

〔地区の課題の認識について〕

- ・ 市全体のまちづくりの課題が地域の課題につながるの、それを確認した上で討議した方がよい。
- ・ これからは、行政だけの力でまちづくりを推進することは難しくなり、市民の主体性をどう作っていくか、育てていくかという協働のまちづくりが一つの大きなテーマになる。協働を考える上では複数の関係者の協力、連携がキーワードになると思う。
- ・ まちづくりは社会教育だけではなく、さまざまな分野を含む広い概念。地区、地域公民館についての情報を共有しながら、これまでの財産を生かしつつどのように進めていくのかを議論したい。

〔地区役員の現状について〕

- ・ 震災後、地区公民館長、主事の仕事がものすごく増えている。
- ・ 役員だけが辛くなってしまっているというのが、多くの地区の共通点だと思う。
- ・ 地区助け合い協議会について、館長や主事がコーディネーターになったり事務局になったりしているが、これはものすごく大きな負担だと思う。

〔地区の現状について〕

- ・ 地域公民館は住民に密着しているが、地区公民館と住民はなじみが薄い。
- ・ 地区と、住民に身近な地域がどうかかわるのかの議論も大切だ。
- ・ 地区で行われていた行事がなくなってきている。
- ・ 地区公民館は、高齢者向きの行事が多く、若者が参加しやすい行事が少ないと思う。
- ・ 農協がなくなり、学校統合など公共的な施設が減っていく。不便になっている。

〔地区の課題の要因について〕

- ・ 今の地区公民館が大変なのは、建物管理、生涯学習事業、助け合い協議会、市からの依頼対応、この4つが大きすぎて既に忙殺されているところに、さらに地域づくりという仕事が入ってくる。
- ・ 住民が必要だと思う活動と、行政が必要だと思う活動のバランスが取れていないのではないか。可視化されると本当に地区としてやるべきことが見えてくるのではないか。
- ・ リーダーの高齢化と、次世代への引継ぎがうまくできなかったことが、要因にある。

## ○ 今後の地区のあり方について

### 〔地区の負担感の軽減について〕

- ・ 適正な業務をするために必要な仕組みは何かを考える必要がある。公民館制度から地区運営組織制度に移行し、地域の主体性を尊重する運営方式をとれないかということだと思うが、それにより負担感が減るのか、まだはっきりしない。
- ・ これまで議論を踏まえて足りないものは、館長・主事の負担感を減らすための解決策が示されていない。
- ・ 負担感を減らすための解決策がこの取組であることを地区に対して説明していかないと、地区では受け入れてもらえない。
- ・ これ以上特定のポジションの方に負担がかからないように、どのようにして住民で分担していくのか考えたい。
- ・ 地区に入る前に、その説明資料について、この場でチェックし、ブラッシュアップすることが必要だと思う。

### 〔施設の管理運営について〕

- ・ 建物の管理にどの程度の自由度を持たせるかは、地区運営組織に非常に大きく関わってくる。どこまで地域判断に委ねるかという明確なラインを整理する必要がある。
- ・ 公民館は法律に基づいているので、法令的な整理も必要である。

### 〔財源について〕

- ・ 費用面は課題の一つ。資金を整理、再配分、あるいは追加配分することで、事務局がうまくまわるようにどこまでできるかを考えていく必要がある。
- ・ 地区からの地域へ運営資金が提供されているのか、など、財源を確認したい。

### 〔今後の進め方について〕

- ・ 財源、組織、目的、地域や地区との関係など詰めていくべき議題がたくさんある。
- ・ 手持ちの財産、人材でうまく地域を回していく仕組みを考えなければならない。
- ・ 各地区が一定のルールの中でどう運営しているか、施設の利用状況がどうなのかを知る必要がある。事実関係を共有し、困っていることを洗い出した上で、仕組みの中でどうしたら解決できるのかを考えていきたい。
- ・ 全体的には、地区公民館の新しい運営方法についての提案をベースに議論したい。

## ○ 地域運営の事例

- ・ 地区の話し合いを進めるには、始めはテーマを絞らず、各世代のどの地域の人がそのような思いで暮らしているのか、お互いを知ることが大切と思う。
- ・ きちんと場を設け、きちんと話し合えば、若い人たちも動き始めることができる。若い人の危機感が強いところもある。
- ・ 女性の地域参加が大切だと思う。女性にしかない視点で問題提起してほしい。